

# 反射板



鮎田反射板

成川反射板



成川反射板

今回の珍百景は、反射板をご紹介します。写真のように新宮方面から紀宝町方面へ新熊野大橋を通るときに、大きな白い看板のようなものが山の上に立っているのが見えており、何なのか気になったことがある方も多いのではないのでしょうか。

これらは直接電波が届かない場合などに、光を鏡に反射させるように電波を反射させて目的の地へ届けるための無給電中継装置と呼ばれているのだそうです。

右にある成川反射板は、和歌山県が管理しており、和歌山県総合防災情報システムのネットワークの一部として、新宮市の東牟婁支部局と那智勝浦町の大雲取中継所で電波を送信するために利用しており、和歌山県が配置しているのは、この1台のみだそうです。

左にある鮎田の反射板は、関西電力グループの情報通信事業会社が管理しているもので、縦8メートル、横10メートルの大きさで、新宮電力所と那智勝浦町にある大雲取中継所との電波を送受信するために設置されているそうです。普段見慣れているものでも、改めて調べてみることで、新しい発見があるものですね。

## つむぎ

### 地域の歴史も奥が深い！

今回の特集を作るにあたり、多くの方から色々なお話や資料などをいただきました。勉強不足な私たちにとっても親切に教えていただき、本当にありがとうございました。

そんな中で、万葉集の1首が鵜殿の海岸を詠った詩であるというお話を伺いました。その詩は、「水傳磯乃浦廻乃石上作自木丘開道乎又將見鴨」(万葉集巻二の一八五)。訳「水が沿って流れている、岩のみぎわの曲がり角にある岩つつじが盛んに咲くこの道を、再び見ることができのでしょうか。」というもので、真偽の程は解りませんが、「令和」の出典で話題の万葉集と関連があれば素敵ですね。(もっとと日本史を勉強しておけばと後悔中 愛野裕基)

### 職場体験を受け入れて

今回は、まちのわだいで矢洲中学校の職場体験学習として、筑紫武琉くんが広報係へ来てくれた話を紹介しました。

熱心に取り組む筑紫くんを見てみると自分も中学生のときに、成川にある「ナカスポーツ」さんで職場体験をさせてもらったことを思い出し、懐かしい気分になりました。

あれから約10年、目立つことが苦手な自分が広報係として人前に出て、写真を撮り、こうしてみなさんにひとりごとを見てもらうのは想像もしていなかったことでした。自分も偉そうなお話かもしれませんが、何事も経験してみることがよいことだと改めて思いました。

(ノスタルジックな気分になった 田中健太郎)



インタビューをする筑紫くん



広報担当 田中けんたろう



広報担当 田中けんたろう

紀宝の  
珍百景  
認定